

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ネイスぶらす浦和校			
○保護者評価実施期間	2024年12月6日		～	2024年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	5名
○従業者評価実施期間	2024年12月6日		～	2024年12月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動を行うことが主の施設であるため、お子様の人数に対して職員を多く配置していること。	お子様の人数や状況に応じて、個別の対応もできるよう職員の役割を分担して支援を行っています。 また、職員が多いためこそ多角的な視点での支援や運動指導を行っています。	職員の配置が多ながらも危険な状況も起こるため、再度支援の運営方法の振り返りや日々のヒヤリハットの共有→改善のサイクルを徹底してまいります。
2	「運動療育」として運動面に特化し、身体機能の向上に効果的な活動を行っていること。	運営母体であるネイス株式会社は体操教室を運営しており、当事業所でも体操教室での運動指導ノウハウや運動器具を活かして支援を行っています。それだけでなく、「療育施設」としてお子様一人ひとりの身体感覚や理解のしやすい方法に合わせて支援を行っています。	現在、利用していただいているお子様の「もっとやりたい！」を叶えられるように職員のお手本のレパトリーを増やすための練習や、常にワクワクとする経験を提供するための話し合いなど積極的に行ってまいります。
3	会社主体での研修会が定期的で開催され、職員の資質向上につながっていること。	毎月系列店舗に在籍する職員全員が参加する研修会が設定されており、その中で様々なテーマの講習を受けています。また『児童発達支援管理責任者』『専門職』『児童指導員』といった役割ごとに求められる役割についての研修会も開かれ、それぞれの職責に対する意識向上にも繋がっています。	来年度からは在籍している職員が中心となって行う研修会も開催される予定なので、さらなる資質向上に繋がる事が期待されています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個人情報の取り扱いに関して、十分な配慮ができていない可能性があること。	施設の構造上、壁面が天井まで曇がれておらず、施設外まで会話の内容が届いてしまっている可能性がございます。 また保護者様へのフィードバックの方法にも課題があり、保護者様同士の距離が近く内容が聞こえてしまったり、併設店舗の職員が目を通ることもあるため、秘密保持の観点から課題を感じております。	現在も声量も抑えるなど意識していますが、施設内でお子様の話題を取り扱う際には、個人が特定できないようにインシヤルで呼ぶ、または比較的外部に聞こえにくい場所で行うなどの対応を行っています。保護者様へのフィードバックに関しては少し離れた場所にフィードバック専用のスペースを用意し、距離を取るなどの方法を現在考えております。
2	活動概要や行事予定などを子供や保護者に対して発信が十分にできていない。	季節ごとのイベント行事を定期的に行っていますが、お子様や保護者様に向けて十分に事前の告知や様子の公開ができておらず、利用者様にとっては内部で何を行っているのかが口頭でのフィードバックのみのお伝えになってしまっており不明瞭になっている可能性があります。	イベント行事を行う際には事前に施設で使用しているアプリを介して保護者にわかりやすいように告知を行っています。またイベント後には保護者様が参加中どんな様子だったのかをSNSで公開するなども検討してまいります。
3	保護者間での交流の機会や家族が参加できる研修の機会ができていない。	ペアレントトレーニングや保護者会の開催といった、保護者への研修や交流の機会を確保する体制が整っておらず、また移動に伴う急な人員体制の変更もあり、計画する事がむずかしくなったという要因もございます。	現在は保護者同士の交流の機会に関する要望が多くありませんでしたが、事業所が開校して1年経ち、現在年長児で児童発達支援をご利用のお子様や小学校が入学されるタイミングでは保護者様にご不安な点が多く出てくると考えられます。保護者会などを通して悩みの共有、または小学生のお子様をもつ保護者様の経験談など参考になるお話を聞ける機会になると思いますので、援助資源の確保の意味を兼ねて来年度以降の開催は前向きに検討していきたいと考えております。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ネイスぶらす浦和校			公表日	2025年 3月 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	3	なにかを伝える時には必要に応じて視覚情報を提示するなど、一人一人の特性に合わせて支援を行っている。	教室が地下にある関係上来所するにはどうしても階段を使わなくてはならず、バリアフリーの観点からの配慮が難しい問題がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	2	毎日消毒や掃除をやっており清潔を意識している。 空気清浄機が導入されたこともあり、以前よりは改善の傾向にある。	地下にある教室ということもあり、換気が十分にできていない可能性がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	3	可能な場合は相談室などを使ってクールダウンができる状態にしている。	クールダウンで児童が利用できる空間を考える必要がある。(相談室は設置されているが、使用中の場合もある為都度対応は不可能)
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	アンケートへの協力のお願いは、全スタッフ共通の認識で、保護者様へ伝える事が出来ている。	今回が初実施であるため、内容を検討し改善に向けて取り組んでいく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	上長が個別面談などを行い、意見を言える機会を用意している。	改善点や職員の意見などいえる場はあるが、改善まで実施することが難しいこともあるので、今後話し合いの機会を増やしていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	会社主体での研修機会があり、回数も増えている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	運動課題の内容を写真に撮り、保護者様へお見せして伝えている。 運動課題や個別課題は毎週違ったものを用意し、工夫して活動に取り組んでいる。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	個別支援計画書作成の前のアセスメントする面談は全員とじっくり時間が取れている。	保護者のニーズは面談を通して伺う事ができていうので、児童の希望やツールを活用したアセスメントなども今後取り入れていきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	モニタリング会議、支援会議はかならず行い、全職員の共通認識と意見交換の時間を設けている。 朝礼、終礼などでお子様の様子を共有し合い次の支援に繋げている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	全スタッフが支援計画をいつでも閲覧できるようになっており、支援計画の内容を踏まえた活動を取り入れている。	休みの職員がいる際に行われた支援会議の内容についての共有がうまくできていないので、別途参加していた職員から共有する時間を設けていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2	その日の振り返りを踏まえて一日の終わりに子供の様子についての共有を随時行っている。	標準化されたアセスメントツールの導入を検討していく必要がある。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	朝礼や児童が来所する前に打ち合わせや役割分担を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	4	2		地域交流の機会は提供できていないので、もし要望が多ければ今後開催も検討していきたい。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	2	運動課題を行う際には『何をしたいか』『どんな技に挑戦したいか』といった本人の希望も聞きながら取り組んでもらっている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	3	児童発達管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0		学校の年間計画や行事については子供から聞くことが多く、保護者様から学校の年間行事の予定表を見せていただくなども検討したい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	5		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	5		卒業する学齢の児童は現在いないが、今後に備えて情報は整理して準備しておきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	4		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	5		機会があればこれから積極的に参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	保護者様からの要望がある際に必要に応じて随時面談をし行ったり、活動の様子を見学してもらっている。		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時にそれぞれ口頭で説明しており、その後も不明点があればすぐに答えることができるようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	個別支援計画作成前には面談を行い、保護者の意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	個別支援計画作成後は面談を行い、直接口頭で説明をして同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5		要望が多ければ今後開催も検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3	3		イベントの予定を事前にお知らせしたり、イベント中の様子を施設インスタグラムで公開などしてSNSを活用する方法も検討していきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	2		店舗の壁が薄くて声の大きさの意識があっても、外に聞こえる。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	0			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	年4回の避難訓練の実施の予定を立てている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2		現在、医師から投薬指示を受けてこちらで対応を求められる児童は在籍していない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	2		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	3		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	会社主体の虐待防止の研修があり、全職員が参加している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2	4	重要事項説明書に記載があり、契約の際に同意を得ている。	個別支援計画への記載が足りていないので、今後は更新に合わせて記載していく。